

<p>651</p> <p>652</p> <p>653</p> <p>654</p> <p>655</p> <p>656</p> <p>657</p> <p>658</p> <p>659</p> <p>660</p> <p>661</p> <p>662</p>	<p>散歩のついでに富士山に登った人はいない。 理想や目は漠然とではなく、具体的に明確に持たなければ達成できない。</p> <p>素直の3ステップ 1番目は、人の話を聞く 2番目は、人から聞いて「いい」と思ったことを実行する。 3番目は、結果が出るまでそれをやり続ける</p> <p>言語にはコミュニケーションの道具としてだけではなく、考えるための道具としての役割がある。 母国語の日本語でしっかりものが考えられなければ、いくら小学校から英語を教えた所で 国際競争力などつかない。</p> <p>人間は140億もの脳細胞を持ちながら、普通はその10%からせいぜい20%位しか使用していない。 眠っているその他の細胞を生かして、よりいい仕事をするには、人の2倍、3倍と時間をかけるしかない。</p> <p>相手を認める尊敬の念を持つ気持ちがあれば、ライバルが伸びることによって、自分もまた 伸びることができる。</p> <p>異端は認められた瞬間に先端となる</p> <p>腹が減ったら飯を喰う。では、心が減ったら何を喰うのか。 「心の栄養」は、次の3つを繰り返すことだと思う 1番目は、まず「やって良いことと、いけないことの分別」だ。人は日々生活の中で、親からの躾や 学校での道徳教育などから自然に分別が身に付く。分別は人として最低限必要なことだ。 2番目は、「努力」と「達成感」である。受験でもスポーツでも何でもいから頑張っ、できるだけ 生き残る。A34:C64 負けても諦めず、もう一度失意の底から乗り越えて頑張ることだ。 3番目は、「人を愛する心と喧嘩による悔しさ」である。豊かな心は母親からの深い愛によって 育まると云われている。また、「いい恋愛」と同様に「いい喧嘩」も必要で、心のときめきと 悔し涙が思いやりのある豊かな心を作る。</p> <p>子供の成長とは身体が大きくなることではない。「分別」と「努力」と「達成感」そして「愛」この3つが 自分への投資となって、「もう一人の強い自分」ができる。 人生というレースで問題になるのは、卒業証書や学位をどんなに沢山持っているか、 ということではない。「あなたは何が出来るか」といことなのだ。</p> <p>人生の方程式。 人生・仕事・結果＝考え方 × 熱意 × 能力 (-100~+100) (0~100点) (0~100点) ・「能力」とは、知能、学力や運動神経なので、多分に先天的なものがあるので、個人の意志が 及ばない部分がある。能力の点数は、0点から100点までである。 ・「熱意」は、「努力」と言い換えることができる。これも全くやる気のない0点から仕事に対して 燃えるような情熱を抱き、懸命に努力する100点までである。 ・「考え方」は、-100点かた+100点までである。例えば、世を拗ね人を恨み斜めに構えたものの 見方をする人の場合、「考え方」はマイナス100点になる。一方、壁にぶつかっても素直に 人の意見を吸収し、苦労もいとわず仲間や他人に善かれと願い明るく真面目に努力し 続ける人の「考え方」はプラスになる。</p> <p>学力、能力が高くて自らの能力を過信して、仕事をなめて努力を怠っている人間は出てくる 仕事の結果も低い。一方、能力は低くても、能力が劣る分仕事の情熱を持ち、人の何倍も 努力をし、さらに考え方が前向きで思いやりがあれば、桁違いの結果が出る。 我々が自由に使って良いことになっている天からの授かりものの中でいくつかの 理由で時間ほど貴重なものはないのに、大部分の人は時間ほど無頓着に浪費 しているものはない。いくら使ってもすり減らない、それが頭脳だ。</p> <p>「我々が目指すのは、あの山の頂なんだ」と目的地をはっきり示す事が重要。あくまでも、あの山 あの頂に辿り着くために山を登るんだと。そうでないと、単に山を散策するだけで、終わってしまう。 (山の中を何となく散策して、あるいは山の周辺を気持ちよく散歩しただけで終わってしまう)</p> <p>読書とは、実生活では経験できない「別の世界」の経験をし、他者への想像力を磨くことだ。 重要なのは、「何が書かれているか」ではなく、「自分がどう感じるか」なのである。</p> <p>生きものの世界では、環境＝条件が変化した時、「結果として変化に適応できた種」だけが 生き残る。</p>	<p></p> <p>白川 英樹</p> <p>広中 平祐</p> <p></p> <p>管 裕明</p> <p></p> <p></p> <p>稲盛 和夫</p> <p></p> <p>稲盛 和夫</p> <p>山中 伸弥</p> <p>見城 徹</p> <p></p>
---	---	--

663	失敗と書いて、成長と読む。 人間というものは、成功した時にはどうしてうまく行ったのかはそれほど考えない。 失敗した時こそ「なぜ？」と原因を突き詰め、「自分のやり方は間違っていたのだろうか」と自省し、「では、どうすればいいのか」と考える。その繰り返しの中で人は成長するのである。	野村 克也
664	「技術力には限界があるが、頭脳には限界がない」壁にぶつかった時、「もうダメだ」と諦めてしまいか、それとも「どうすれば乗り越えられるか」と徹底的に考えるか。 それが一流と二流を分けるのである。	野村 克也
665	人間世界の「ルール」や「条件」は、全てかつて誰かが作ったものである。 人が作ったルールが永遠にそのまま続くことはない。自分以外の専門外のことに疎く、仕事や興味の範囲内でしか生きていないと、これまで当たり前とっていたルールや制度が簡単に変わってしまうことに気付き難くなる。	池上 彰
666	ルールを守るばかりでなく、ルールを作る側に回る。その時に必要となるものが教養である。フレームワークや所与の条件やルールそのものを疑ってかかる想像力。教養とはそんな力を養ってくれる。すると、あらゆる変化が「想定外」ではなくなる。 例えば、歴史を学ぶ。人間の作った国やルールや制度がもろく崩れてしまうのかを知ることができる。一方で、新しいルールを創った者が短期間で市場を国を制することがある、ということも学べる。	池上 彰
667	楽を追えば楽は逃げて行く。苦から逃げれば苦が追いかけて来る。	永守 重信
668	苦から逃げないところに改善があり、前進があり、企業としての成長がある。 一度の失敗を恐れて何もできない人は進歩しない。 しかし、同じ失敗を三度続けてやる人には問題がある。	
669	成功者ほど「自分は運がいい」と思い込んでいる。 前向きに生きていくためには、自分の運の良さを信じるのが良い。	植西 聰
670	帆船は、風がなければ海へ乗り出して行けない。人間も同じである。 風がなければ、人生という大海原に乗り出して行けない。 人間にとって「風」とは何なのでしょう。それは「情熱」である。危険を恐れることなく勇気を持って人生という航海へ乗り出して行くには「やってやるぞ」という情熱を持つことが大切である。	ヴォルテール
671	自分の夢を実現するためには、「しっかりとゴールを持ち、常にそのゴールを忘れない」ことが大切である。しかし、それ以上に大切なことがある。「今、目の前にあるものに全力を注いで生きる」ことである。	喜多川 泰
672	才能とは、あらかじめあるものではなく、自図からの努力で開花させるものである。 そして、才能を開花させるものは「情熱」である。	
673	失敗した人は、才能を理由に挙げる。成功した人は情熱を理由に挙げる。	
674	天然の味に勝る美味なし。新鮮に勝る美味なし。天然と一口に云っても色々ある。 第1に季節、第2に産地、第3に育成状況、第4に鮮度。そして、第5に適当な大きさ。 また、扱い方や素材への理解がなくては持ち味を殺すことになる。これが、第6である。 上手に扱えば美食になり得る素材も、いい加減に扱えば、ただのこだわりと出費に終わってしまう。	魯山人
675	料理は好きで作る以上に名法はない。愛情と趣味の心が大切で、それがあれば素材への関心も高まり、料理も必然的に美味となり、料理の腕も上がっていく。	魯山人
676	プレッシャーから誰でも逃げたいと思うが、プレッシャーが自分を強くするということがの方が大事である。困難から逃げたら解決策が逃げるだけでなく、自分自身を強くするチャンスを失うことになる。	室伏 広治
677	準備は、自信を持つために行うこと。成功は、十分な準備がもたらす自信が呼び込む。	室伏 広治
678	プロとアマの違いは、何と云っても心構えである。それをもう少し詳しく言うと、結果と責任に対する姿勢である。	
679	本気で怒ってはいけぬ。怒る時は、必ず演技でなければいけない。	エディー・ジョーンズ
680	何かを得たいならまず相手を褒め、何かをアドバイスしたいなら、相手が尊敬している人の名前を使え。	古田 敦也

681	成功とは苦しんだ日々の創意工夫と努力から生まれ、失敗とはおよそ順境の時に慢心し油断することによっておこる。	安岡 正篤
682	教養なき自己流のでたら目、当てずっぽうの作物は所詮ものにならない。 要は、名器を見て学ぶ態度を作業の第一にしなくてはならない。名器を見ずして作陶にふけるな。 書を読まずして、学者たらんとするに等しい。	ピーター・ドラッカー
683	勇気とは、「リスクを引き受ける能力」、「困難を克服する能力」、「協力できる能力」の一部である。	マドラー心理学
684	勇気付けとは、自尊心と達成感を与えるための継続的なプロセスである。	岩井 優
685	反省をしない限り、いつの日か良くない結果をもたらすことになる。	グラディオオラ
686	適切でなければ成すべからず。真実でなければ言うべからず。	ダ・ビンチ
687	人は謙虚さに欠けると、自らの品位を落とすもの。	アガサ・クリステイ
688	物事が実現するか否かは、まずそれをやろうとする人ができると信じることから始まる。 自らできると信じた時に、その仕事の半分は終了している。	永守 重信
689	事に当たっては、必ずやるという信念 出来るという執念 必ず良い結果を持たらすという自信 が大事である。	永守 重信
690	「明日やります」、「後でやります」と良くする人は、やりたくない人であり、何もやらなと考えて良い。 また、「そのうちにやります」は、絶対やりませんと同じである。	永守 重信
692	「去って欲しい社員」と考える7つのタイプ。 ① 知恵の出ない社員 ②言われなければならない社員 ③すぐに他人の力に頼る社員 ④すぐ責任転嫁する社員 ⑤やる気旺盛でない社員 ⑥すぐ不平不満を言う社員 ⑦よく休み、よく遅れる社員	永守 重信
693	能力は一流、人間は三流の部長の下では、業績は五流以下である。 人を動かそうとする時に大事なものは「心」と「情」である。	永守 重信
694	自分の意志でやっている苦勞なんて、そうでない苦勞に比べれば軽いことだ。	本田 宗一郎
695	日常生活の中で、もうこれ以上はやれないという所まで、一生懸命にやり尽くす。 そこまですれば、本番ではいい意味で開き直れる。	羽生 善治
696	普段不必要に怒らないようにするには、他人に期待したり、頼り過ぎないようにすることが一番。	丹羽 宇一郎
697	疲れとは、仕事を自発的にどれだけやっているかという姿勢に関わる。仕事を他人(会社)からやらされているという気持ちでしていると、どうしても面白くないし、ストレスもたまる。	丹羽 宇一郎
698	半面教師からの学びは大きい。 なぜ、この人はこういう所がダメなのか、なぜ嫌いな思いをわざわざ人にさせるのか。 じっくり観察して分析することで、もしかしたら自分にもこういう要素があるのではないかと戒めたり、自分ならこんな対応をしようかと考えたりする。	丹羽 宇一郎
699	2:6:2の法則があるが、上位2割の優秀な人と6割の普通の人との差が何処から来るかという、努力の差以外にない。つまり、努力する情熱と気力の差と言い換えても良い。 上位2割の人達は、情熱と気力を持って仕事に打ち込むので、能力がどんどん磨かれ伸びるスピードも速くなる。	丹羽 宇一郎
700	最終的に能力の差を決めるものは、情熱の差であり、気力の差であり、そして努力の差である。	丹羽 宇一郎
701	目標達成への一番の近道は、今日一日を全力投球で過ごすこと。	高橋 尚子
702	どんな仕事も一番きつところは、一番乗り越えなくてはならないところ。 その時こそチャンスの時でもあるのです。この最後のひと踏ん張り、実は自分の一番成長するところ。伸びしろのようなものである。つらい時、逃げたい時を思い出して下さい。 今が伸びるチャンスなのです。	

703	疾風に勁草を知る。止まった時間を動かすのは、自分自身。	
704	良い上司になりたければ、良い顧客になれ。 良い部下になりたければ、良い上司になれ。良い納入業者になりたければ、良い友達になれ。	デイル・ドーデン
705	ちゃんと努力し続けていたか、いい加減にやっていたか。それを神様は、ちゃんと見ていて「よし、合格」となったら、その人間を不思議な力で後押ししてくれる。	林 真理子
706	ストレスのかかるつらい状況は、自分がタフになるための不可欠な要素である。	イチロー
707	病気になると、より健康になる。 人間には回復力というものがある。回復力は、喪失より強いのが通常である。 病気の後には、前より一層元気になるものだ。回復力を上手に利用すれば、体は強くなることも可能である。リンゴにキズが出来れば、それをかばって力を出す。元通りになろうとして、普通以上にうま味を持つようになる。回復力は人間だけでなく、生きるものが共通に持つ自然力なのであろう。	外山 滋比古
708	35才になって芸というものに目覚めなければ、いくら修行してもモノにならない。 しかし、そこで目が開かれれば、老年になっても花が咲き、しかも散ることはない。	世阿弥
709	どんなに貧しく、つましい花であっても、自分の育てた根から出たものは、 流行の切り花とは違った価値がある。それこそ、ライフワークである。	
710	終わったことは気にするな、結果は変えられない。次にどう行動するかが大事なのだ。 試合の勝ち負け以上に重要なのは、自分たちが試合の内容に納得しているかどうかである。	平尾 誠二
711	人を叱る時の4つの心得。 ・プレーを叱っても人格は攻めない。 ・あとで必ずフォローする。 ・他人と比較しない。 ・長時間叱らない。	平尾 誠二
712	世の中には理不尽なことが沢山ある。理不尽な経験をポジティブに捉えれば得るものも色々ある。	
713	チームワークとは、個人が責任を果たすこと。助けられている人間がいるとチームは勝てない。 一人一人がプロフェッショナルとしての気持ちを持つこと。	平尾 誠二
714	ダビンチの才能は、絵を見る人にもっと見たい、もっと知りたいと思われるところにある。 「モナリザ」は想像力を刺激する。見る人をまだ描かれていない物語の中に引き込む。	
715	人間は、負けたら終わりではない。やめたら終わりなのだ。	リチャード・ニクソン
716	良い習慣は才能を超える。	佐々木 常夫
717	考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。	マガレット・サッチャー
718	裏方仕事をしてこそ、表舞台に立つことが出来る。	千 玄室
719	どれ程立派な道具を使っても、準備が出来ていなければ台なしである。 反対に準備と後始末を心を込めて一生懸命やっておけば、ゆとりを持って当日に臨むことが出来る。	千 玄室
720	夢泣き者に理想なし。理想なき者に計画なし。計画なき者に実行なし。 実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。	吉田 松陰
721	老人にはキョウイクとキョウヨウが必要である。 キョウイク…今日、行く所がある。 キョウヨウ…今日、用がある。	
722	悟りということは、いかなる場合にも平気で死ぬことかと思っていたのは間違いであった。 悟りというものは、いかなる場合でも、平気で生きて行くことであった。	正岡 子規
723	「好きなこと」をするのは、「金を払うとき」。コンサート、スポーツ観戦、どれもお金を払って楽しむものです。極論すれば、「好きなこと」というのは、「趣味」なのです。趣味を楽しんでその上でお金までもらえる。そんな極楽みたいな世界があるなら、私もあやかりたい。	百田 尚樹
724	「寂」は、「寂然不動」の「寂」で、どっしりと落ち着いて何があっても動じない心を表します。 後になって「ああすれば良かった」と悔やまないように、余裕を持って準備しておく。 どんな時も明日のために前向きな姿勢を持つ。そうした揺るぎない信念こそが「寂」です。	千 玄室

725	<p>時間は無償です。ただし、どれ程の代価を払っても買えません。一度失ったら、手元には永遠に引き戻せません。だから、今日が大切。今この瞬間を生き抜く。</p>	千 玄室
726	<p>稽古は、一から始めて十まで到達したからといって、それで十分ではない。十までいったら、再び一に戻って繰り返す。そうやって自分のものにしなければならない。</p>	千 玄室
727	<p>「質問をする」という行為は、自分の頭で考え、「理解できている部分」と「そうでない部分」を明確に分別することで生まれ出る。「わからないまま」に甘んじない。</p>	若田 光一
728	<p>「考え、行動したプロセス」は、メモしておく。「行動に移した結果」と「行動をとる前に答えを出すまでの意思決定のプロセスのメモ」を見返すことが重要である。</p>	若田 光一
729	<p>メモすることで2つのプロセスで客観的になれる。 まず、メモ程度の簡単な文章も書いてみて、初めて自分の気持ちを客観的に整理された形で見ることができる。また、あとで振り返った際の「あの時、こんな風にかんがえていたのか」と状況を照らし合わせながら、客観的に原因と結果を整理することができる。</p>	若田 光一
730	<p>チームの「目的」と「優先順位」を常に把握する。</p>	
731	<p>失った財物は努力によって、失った知識は勉強によって、失った健康は医療や養生によって、取り戻せるかもしれぬ。しかし、失った時は二度と取り戻せない。</p>	サミュエル・スマイルズ